



## 2015 九州オープン選手権競技

競技報告 (2015/6. 11-14)

写真と記事 : M. Kikutake



(C)GUK

通算5アンダー

**和田章太郎（フリー）が初優勝**

ベストアマは

**総合2位タイの清水大成（大博多）が初受賞**

2015九州オープン選手権競技（賞金総額1800万円、優勝賞金300万円、特別協賛＝㈱えん優勝副賞200万円）は6月11日から4日間、熊本県大津町の阿蘇大津ゴルフクラブ（7002ヤード、パー72）で行われ、通算5アンダー、211をマークしたプロ3年目、19歳の和田章太郎（フリー）が初優勝した。和田は3日間、首位を譲らない完全優勝で、自身のプロ初勝利だった。

アマチュアの最上位者に贈られるベストアマはこの日66のベストスコアで回った東福岡高2年、16歳の清水大成（大博多）が総合でも2位タイになり、初めての栄冠を獲得した。

和田は2位に1打差をつける単独首位で最終日を迎えたが、前半をパープレーで回った後の後半、3バーディー、2ボギーとスコアを伸ばし、追撃を断った。

1打差で追う立場だった池村寛世（フリー）は終盤の勝負どころで池に入れるなどしてダブルボギーを連発して後退。同様に1打差の出水田大二郎（フリー）も前半、2オーバーで折り返したのが最後まで響き、逆転はならなかった。

2打差の2位タイはこの日、1イーグル、7バーディー、1ボギー、1ダブルボギーと出入りの激しいゴルフながらベストスコア66で回った清水と、出水田の2人。さらに1打差の4位タイには比嘉一貴（東北福祉大2年）、三重野里斗（大分）、黒木紀至（UMK）の3人が入った。

アマチュアはベストアマの清水のほか、セカンドアマに比嘉、サードアマに昨年の日本ジュニアチャンピオン、長崎県佐世保市の崎辺中3年、14歳の池田悠希（佐世保国際）が入った。

（写真は初優勝の和田章太郎Ⓔと、ベストアマの清水大成Ⓕ）



(C)GUK

## プロ主力欠き、混戦模様

今大会は「株えん」、「阿蘇大津ゴルフクラブ」の特別協賛で行われ、九州在住プロ 95 人、九州アマチュア選手権などの予選を通過したアマ 49 人の計 144 人が出場。しかし、プロはプロツアーのシンハコーポレーション・タイ・オープン、国内チャレンジトーナメントの ISPS ハンダグローバルチャレンジカップと日程が重なるなどから、ツアーシード選手や前回優勝の北村晃一（ミッションバレー）ら主力を欠く大会となった。

競技は雨天順延の仕切り直しとなった第 1 R、和田は 6 バーディー、1 ボギーの 67 で単独首位。これを 1 打差で池村ら 2 人、さらに 1 打差で宮國雄一郎（フリー）ら 2 人が追い、アンダーパーが 15 人という混戦のスタートとなった。

第 2 R は激しい雨と風の中のラウンド。和田が 73 としたものの他もスコアを伸ばすことができず、首位をキープ。これを 1 打差で池村とこの日 71 の出水田が 2 位タイと食らいついた。

そして、最終日。朝の間の雨も上がり、曇り、微風の絶好のコンディションとなったが、1 つスコアを伸ばした和田が他を振り切り、逃げ切った。

## 大雨で競技は 54HS に短縮して実施

今大会は初日（予選第 1 ラウンド）、熊本地方を襲った大雨でコースコンディションが悪化したことにより、競技委員会を開いて午前 9 時 15 分、中止順延を決定。大会は 54 ホールストロークプレーに短縮され、12、13 日に予選ラウンド、最終日の 14 日に 18 ホールによる決勝ラウンドを行った。なお、プロの部の賞金は、大会規定通りに全額が支払われる。

また、日本オープン選手権（10 月 15 日から、兵庫県、六甲国際 GC）への九州の出場枠は、8 月に入ってから日本ゴルフ協会（JGA）から発表される予定となっている。

（写真は戦いを終え、健闘をたたえあう和田ら）



「ピンチでも慌てなくなりました」

## 成長の跡を見せ、優勝を勝ち取った和田章太郎

優勝争いは、ジュニア時代から競ってきた最終組の若手 3 人に絞られていた。

上級生だが、鹿児島・鹿屋東中 3 年から樟南高の 3 年間、九州ジュニア 4 連覇の記録を持つ 22 歳の出水田。和田は百道中（福岡市）時代に九州ジュニアを取り、福岡第一高 3 年の時に九州アマチャンピオン。池村（志布志中一尚志館高）は優勝歴こそないが、和田と同級で、ジュニアを舞台に戦った仲だった。

和田は前半、スコアカード通りのラウンドで 36。追う池村は 2 バーディー、1 ボギーとして和田に追いつき、もう一人の出水田はダブルボギー、ボギーのあとバーディーが来たが、和田との差は 3 打に開いた。そして、後半。

和田は崩れる様相を見せずホールを積み重ね、1 つスコアを伸ばした。対する出水田は 4 バーディー（2 ボギー）と追いつけたものの、及ばず。池村は最終盤の 17 番で第 1 打を池に入れてダブルボギーにして緊張の糸が切れた。

「あれで、18 番は 3 パットしても優勝できる、と気が楽になった」と振り返る和田。敵失による勝利、と言えないことはな



いが、淡々とパーを重ね、チャンスには確実にものにする和田のゴルフに、2人を焦らせたのは間違いないようだ。

高校3年の九州アマで自信をつけ、高校でプロ宣言。卒業後は日本経済大に進学し、学生プロとして活動してきた。九州サーキットやチャレンジトーナメントに挑んできたが、鳴かず、飛ばず。結果が出なかった。

「振り返ってみると、去年は感覚でゴルフをしていたし、考え方もまだまだ、アマチュアのゴルフだった」という和田。それが、昨年末からプロの師事を受けるようになって、自身もプロに近づいた。「いろんな練習に取り組んだ結果、トラブルになっても慌てなくなった」。先生からも、最終日前夜、電話で「周りを意識せず、自分のゴルフに徹しなさい」とアドバイスを受けたという。

そして、勝ち取った「九州の覇者」という名誉と、「賞金 300 万円プラス 200 万円」。賞金は「まずは両親に何かおいしいものをご馳走したい」とはにかんだ和田。そして、「貯金です」と。将来、ツアー競技にチャレンジするとなると、それなりに経費は掛かる。その時のために、と堅実だ。

そのツアー競技は、今回の優勝で、地元で開かれる8月のKBCオーガスタに推薦出場できる。そして、10月の日本オープンというメジャーだ。「とにかく、今回の優勝を足掛かりにして…」と言う和田のこれからの成長に注目していきたい。

(写真⑤は両親と。⑥は大会を支えたキャディーさ



んと記念撮影)

## 自己ベストの66 初めてのベストアマに輝いた清水大成

〇…アテストが済んだスコアカードをのぞき込むと、合計欄に「66」という数字がくっきりと書かれていた。

話を聞いてみると、自身にとってもベストスコア。「昨日は風に泣かされたけど、今日はドライバー、アプローチ、パット、みんなよかった」と笑顔で答えてくれた清水大成だ。

3オーバーの22位タイでの最終日。清水は前半、4バーディーとスコアを伸ばし、後半も15番まで3バーディ、1ボギーと快調に飛ばした。16番(パー3)では「軽く打ちすぎた」と池ポチャのダボ。しかし、最終ホールでイーグルを奪い、帳尻を合わせた。

20人をごぼう抜きして2位タイへ。「父には60台で回る、と言ってたんですが、本当になるとは」と自分でもちょっぴり驚く出来だった。

ゴルフはその父、稔大(としひろ)さんの手ほどきで9歳から始め、小6の九州小学生大会で2位になった。この後の目標は当然、夏の九州ジュニア。「久住高原(会場)で優勝を目指します」と力強く宣言した。

(写真は山下新太郎GUK理事長から表彰される清水大成)

